

News Release

物流 MaaS の実現に向けた研究開発・実証プロジェクト

(見える化・自動荷役等による輸配送効率化)

～データの連携×物流機能の自動化で最適物流を目指す 2 プロジェクトが決定～

ID&E ホールディングス株式会社（本社：東京都千代田区、代表執行役社長：新屋浩明）傘下の日本工営株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：金井 晴彦）は、経済産業省の令和 5 年度「無人自動運転等の CASE^{※1} 対応に向けた実証・支援事業（無人自動運転等の先進 MaaS 実装加速化のための総合的な調査検討・調整プロジェクト）」を受託し、物流 MaaS の実現に向けた研究開発・実証プロジェクト（見える化・自動荷役等による輸配送効率化）を 2023 年 5 月より募集していましたが、この度実施プロジェクトを決定しました。

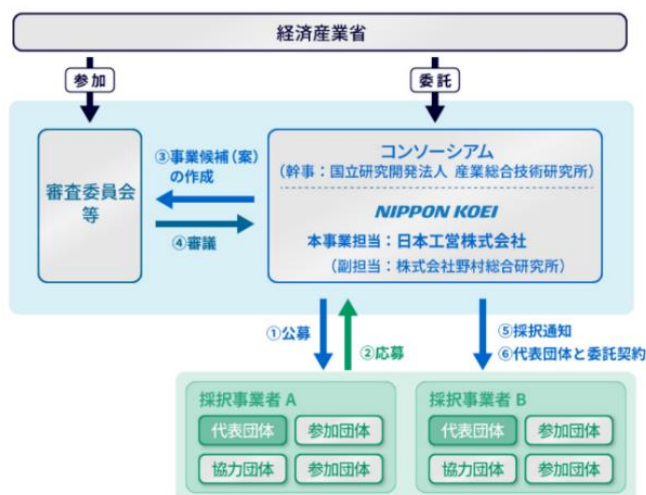
※1 クルマを IoT（あらゆるモノがインターネットにつながる仕組み）端末と位置づけてデジタル化・電動化を推進し、自動車産業を製造業からモビリティ（移動）産業へ変革させる動きの総称。C=Connected、A=Autonomous、S=Shared&Service、E=Electric

日本国内の運輸部門における CO2 排出量の約 4 割を占める貨物自動車分野においては、カーボンニュートラル、慢性的な需要過多・人手不足、デジタル化、100 年に一度と言われる CASE など、その事業環境の大きな変化の中で、新たな技術も活用しながら、様々な課題へ対応することが求められています。

そうした状況を踏まえ、経済産業省において、データ連携と物流機能の自動化により社会課題解決や物流の付加価値向上を目指す「物流 MaaS」の実現像の達成に向けて、「①トラックデータ連携の仕組みの確立」「②見える化・混載による輸配送効率化」「③電動商用車活用・エネルギーマネジメントに係る検証^{※2}」の 3 テーマで、実証事業などが推進されてきました。

※2 ③については、令和 3 年度末にて事業終了

本事業は、経済産業省からの委託を受け、様々な物流課題への対応が迫られている商用車業界において、荷主や物流事業者と連携して新しいモビリティサービスの実装を目指し、「②見える化・混載による輸配送効率化」をテーマに実証実験をおこなうプロジェクト実施者を募集したものです。実施プロジェクトを通じて、架装・積荷情報の取得方法の確立、パレットレベルの自動荷役や連結トラックの実装に向けた課題を踏まえ、自動荷役や共同輸送の実装を目指し、架装・積荷情報の取得方法・取得情報の高度化や荷役自動化の技術実証範囲の拡大、データ連携の実現に向けた必要情報の整理及び連携基盤の構築を実施します。



事業の実施・審査体制

1. 選定結果

- IT 事業者・保険会社等との連携による運行品質向上モデルの構築（実施主体：三菱重工業株式会社）
- 新たな幹線輸送スキームによる省人化、環境負荷低減、働き方改革の実現（実施主体：NEXT Logistics Japan 株式会社）

* 詳細は別紙 1 をご覧ください。

2. その他

プロジェクトの情報は、以下の特設サイトからご確認ください。

▼物流 MaaS の実現に向けた研究開発・実証事業（見える化・自動荷役等による輸配送効率化）特設サイト

<https://maas-logistics-koubo2023.jp/>

▼物流 MaaS の実現像（令和 2 年 4 月とりまとめ）

https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/butsuryu_maas/index.html

▼これまでの物流 MaaS 推進検討会における議論内容

https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/automobile/automated-driving.html

—公募に関するお問い合わせ先—

日本工営株式会社 交通政策事業部 交通都市部

E-mail: ml-mobichalle@dx.n-koei.co.jp

—報道関係のお問い合わせ先—

ID&E ホールディングス株式会社 経営管理本部 コーポレートコミュニケーション室

TEL :03-5276-2454 Email : c-com@n-koei.co.jp

ホームページ : <https://www.id-and-e-hd.co.jp/>